

東日本大震災における文化財保存修復学会災害対策調査部会の対応について

現在、東日本大震災で被災した文化財の情報が、少しずつ入り始めています。災害対策調査部会におきましても、精力的に情報収集に努めており、1か所の施設で数万点の文化財が被災しているとの情報ももたらされています。しかしまだ全容を把握するには至っていません。なお、いくつかの団体が調査と一部文化財の救出に動き始めたとの情報は入手しております。

しかし、現地では、行方不明者の搜索活動が今も続いています。また、被災地の状況、交通網や移動手段、宿泊施設、健康管理体制の確保など不明な点もあり、現時点では外部から入るには困難が多いと、我々は考えています。

そこで災害対策調査部会における現段階の対応としては、文化庁が設置した「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）の動きに合わせて行動しようと考えております。多くの会員の皆様から寄せられている協力要請に関しては、保存修復の専門家としてどのような協力をお願いするのが被災地にとり最良か検討をしているところです。

具体的な救済活動に関して、学会員の皆様にご報告する件、今しばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます。

2011年4月6日

文化財保存修復学会災害対策調査部会